

全国小学生学年別柔道大会

2010年8月22日 / 北海道立体育センター「きたえーる」



第7回全国小学生学年別大会が2010年8月22日、北海道立体育センター「きたえーる」で開催された。口蹄疫の影響で予選を実施出来なかった宮崎県が不参加であったが、46都道府県からの代表376選手によって男女各4学年、合計8階級で「小学生日本一」の称号を求めて熱戦が繰り広げられた。見事に2連覇を達成したのは、女子6年生45kg超級の桑田晴乃さん(石川)一人であった。

今大会より予選リーグを行わずにすべてトーナメントとして、試合時間も従来の2分から3分間に延長した。この変更によって、しっかりと組み合って技を掛け合う展開が多く見受けられるようになった。

《男子》

5年生 45kg 級

- 1位 山中堅盛 (東京・春日柔道クラブ)
- 2位 鈴木康鷹 (神奈川・朝飛道場)
- 3位 陶 侑希 (和歌山・正木道場)
- 3位 津嘉山崇 (福岡・東福岡柔道教室)

5年生 45kg 超級

- 1位 中里勇斗 (北海道・登別誠有館有備道場)
- 2位 中島大貴 (大分・雄心館道場)
- 3位 利根琢也 (福井・三国町柔道教室)
- 3位 藤井峻将 (北海道・清水町柔道スポーツ少年団)

6年生 50kg 級

- 1位 笹原大雅 (福岡・本吉塾)
- 2位 飯田健太郎 (神奈川・湘南宮本塾)
- 3位 飯垣由生 (東京・臥牛館道場)
- 3位 小林礼弥 (和歌山・正木道場)

6年生 50kg 超級

- 1位 辻 湧斗 (神奈川・朝飛道場)
- 2位 磯村亮太 (愛知・羽田野道場)
- 3位 粟野諒平 (千葉・大原町少年柔道教室)
- 3位 新井 剛 (茨城・力善柔道クラブ)

《女子》

5年生 40kg 級

- 1位 佐々木郁実 (北海道・札大ジュニアJUDOクラブ)
- 2位 明石ひかる (宮城・太陽塾)
- 3位 山室未咲 (兵庫・将祥柔道館)
- 3位 都留麻瑞 (京都・福知山柔道教室)

5年生 40kg 超級

- 1位 上林山未来 (鹿児島・光武館)
- 2位 和田梨乃子 (兵庫・天崎講武会)
- 3位 平田 樹 (東京・春日柔道クラブ)
- 3位 下山幸菜 (群馬・下仁田柔道教室)

6年生 45kg 級

- 1位 田中美月 (兵庫・広畑柔道教室)
- 2位 伊藤友希 (滋賀・湖東練成館)
- 3位 武田亮子 (京都・宇治柔道会)
- 3位 出村花恋 (福井・県立武道館武道学園)

6年生 45kg 超級

- 1位 桑田晴乃 (石川・松任柔道スポーツ少年団)
- 2位 岡田 蛍 (兵庫・長田柔道会)
- 3位 塔本葵葉 (熊本・小川少年柔道クラブ)
- 3位 稲葉瑞希 (茨城・結城少年柔道クラブ)

「競技生活を通して得た価値」

谷本 歩実



真っ白な柔道着に袖を通して20年。この間、現役生活においては柔道の理念である人間教育を「一本柔道」と自分なりに表現して貫いてきました。現役を退くにあたり、これまでに培ってきた私の柔道に対する信念と理念についてお話をさせて頂きたいと思います。

柔道を通し学び得た3つの事

- 1) 日本の柔道の素晴らしさは“道”にある
- 2) 柔道の理念を追求し具現化することが人間教育としての柱となる
- 3) 目標と目的を持つ事が夢へ続くレールとなる

“一本”で投げ切る理想を追い続けて目指したもの

現役柔道を二分すると本来あるべき武道とスポーツとしての競技があると思います。かつて、武(士)道が武士としての命の終わり方を、生き様を通して死に方を考えた時代に対し、嘉納治五郎先生は「これからは死に方ではなく“どう生きるか”を命のあり方として教育していこう」と“道”を生き方に求め、柔の道として人間教育を唱えてこられたといわれています。その後、国際的に柔道が普及し、目覚ましい発展を遂げ、世界の柔道となり喜ばしい反面、スポーツとしてのJUDOに偏狭されがちになることも危惧されてきました。

現役時代の私は、この二極化する柔道を融合することが理想であり、最大の目標でした。しっかり組んで投げ切る戦法は勝ち味が遅い、時代遅れだと酷評されたり、勝利至上主義的戦法が脚光を浴びたり、世界のトップ選手だけでなく子供たちまでもがポイント柔道になりがちな風潮がありました。青少年育成の基盤としての本来の姿が後退することに疑問を感じながらも、一本で投げ切る理想を追い続けてきました。アテネ、北京五輪ともに全試合一本勝ちで戦い終えたことは達成感と共に、ライバル選手たちに感謝せずにはいられません。

柔道の理念が自分を育ててくれた

一本柔道を目指し、その目的を信念として柔道の本質を理解していく中で、結果として競技としての矛盾を無くし、融合していくのであろうと私は考えます。目標ばかり見ている足元をすくわれますが、信念が必ず目標への支えになっていくと思います。私自身が何度一本柔道の心に支えられてここまで来ることができたか。柔道を通した人間教育の場では自発的に実践していくことに人間形成の意味がありました。階段を一段一段着実に歩み前進する事が必要だと私は教えられました。忍耐も勉強、挫折も勉強、負けは成長、勝利は感謝。素直な心を持つことが心身共に成長させる秘訣だということ、本当に沢山のことを経験させていただきました。柔道の理念が自分を育ててくれたように思います。そしてこの精神を教育、指導して下さった多くの先生方に感謝している次第です。

後輩、子供たちに貢献したい

現役を無事終えたこと、オリンピックの舞台に立てたことが柔道人生を達成したことではなく、今新しい第一歩が始まったように思っています。これまで指導をうけたこと、学んできたこと、経験してきたことを自分のこれからの人生にどう生かせるか、新しい目標と目的をもって挑戦していく決意しています。柔道を通して後輩、子供たちに少しでも貢献できる自分になれるよう頑張っていく所存です。